

学生と地域住民協働の町づくり
～西条 **LOVERS** の活動を通して～

広島大学 総合科学部 2年 藤原 佳祐

目次

第1章 序論

- 1.1 学生と地域住民が相互に関わっていない現状とそのデメリット
- 1.2 学生・地域住民協働の町づくりのメリット
- 1.3 地域住民と信頼関係を築く3段階のステップ
- 1.4 目的と研究課題

第2章 方法

- 2.1 西条 LOVERS の結成と実践活動の分類

第3章 結果

- 3.1 くぐり門音楽会（第3段階）
- 3.2 西条愛を奏で night（第2段階）
- 3.3 東広島音楽祭（第2段階）
- 3.4 まちづくりカフェ（第1段階）
- 3.5 学生喫茶 だんだん（第3段階）
- 3.6 祇園祭（第1段階）
- 3.7 学生と市役所職員の交流会（第1段階）
- 3.8 盆踊り（第1段階）
- 3.9 光の宴（第2段階）
- 3.10 ホームカミングデー（第3段階）

第4章 考察

- 4.1 3段階の信頼関係作りの振り返り

第5章 総括

5.1 結論

5.2 これからの課題と展望

5.3 地域への感謝

第1章 序論

1.1 学生と地域住民が相互に関わっていない現状とそのデメリット

広島大学が位置する西条は学生と地域住民の隔絶が甚だしい。大学生の多くは下見を中心に暮らしていて、その地域一帯は学生で溢れている。その結果、学生は学生だけのコミュニティを形成し、地域住民と関わる機会は極端に限られている。その環境は学生にとって大変問題である。なぜなら地域との隔絶は社会との隔絶と同義であるからである。学生だけのコミュニティで生活をしていると、マナーの低下が生じる。学生同士の中でしか通用しない常識がはびこり、さらに地域・社会との距離を広げている。そうした学生だけの人間関係や刺激のない生活にストレスを感じ、うつ病になってしまう学生もいる。さらには高校を卒業し、目的のないまま大学に入学した学生は将来への手掛かりを見つけないことができず、相談すらできない状況にある。

一方、地域住民は独自のコミュニティがあり、学生とはほとんど関係のない形で生活を送っている。そのため地域の魅力を十分に伝えることができず、多くの学生は卒業後に西条を離れていってしまう。学生に西条は何もないところというレッテルを張られたまま飛び立たれると、町全体として大きな損失である。また現在、広島大学がグローバル化を進め、留学生がこれから増えていくことが予想されている。しかし大学だけでなく地域全体でその受け入れをしていかないと、日本人学生と同じような状況になってしまう。さらに地域活動についても担い手がない現状がある。ある一部の住民だけが運営をしていると、自然と高齢化やマンネリ化が起き始めてしまう。そしてついには伝統や文化が失われてしまうことになる。学生と交流がないということが結果的に町全体の魅力を落としてしまっている。

このように学生、地域住民が相互に関わっていないことで両者にデメリットを生じさせている。

1.2 学生・地域住民協働の町づくりのメリット

以上のようなデメリットを解決するために学生と地域住民協働の町づくりを提唱する。学生と地域住民協働の町づくりを私なりに定義すると、同じ町に暮らす学生と地域住民が主体的にお互いの問題を共有し、その解決に向けて協力していくことである。これはデメリットを解決するだけでなく多くのメリットも得ることができる。

学生の立場で言うと地域と関わることは純粋に楽しく、学生生活をより豊かにしてくれる。卒業をして西条を出たとしても、第2の故郷として帰ることができるのは大きな喜びだと思う。また地域と関わることで成長することができる。地域に関わることで学ぶことは大変多いからである。地域には子供、学生、大人、高齢者と様々な世代の人がいる。その人たちと関わる中で、人との付き合い方や社会の問題を知ることができたり、自分に足りないもの、自分がやりたいことなどを発見できたりする。そして困ったときは相談することができる。ただ人々の日常に加わることが学生に様々な学びをもたらしてくれる。

地域住民の立場で言うと学生が地域に入ること、コミュニティ活動が活性化し町全体の魅力が上がっていく。その中で地域の伝統や文化も自然と引き継がれていく。そして西条の魅力を知った学生が、たとえ西条を出たとしても発信者として活躍してくれる。さらに言えば、そこに留学生を含むことができれば世界の中で西条を知ってもらえることになる。また学生と遊びたい子供や、学生のアイデアを取り入れたい大人、学生と話がしたい高齢者などが地域にはたくさんいて、学生が地域に入りこんでいくと地域住民の幸福度を上げることができる。

このように学生と地域住民が協働で町づくりを行うことで win-win の関係を作り出すことができる。

1.3 地域住民と信頼関係を築く3段階のステップ

昨年も東広島地域課題懸賞論文に応募させていただいた。その際も以上に挙げたようなデメリットとメリットを踏まえた上で、コミュニティデザインという山崎氏が行う町づくりの手法を参考にして西条でのコミュニティデザインの可能性を探った。しかしコミュニティデザインを西条で行う場合、様々な障壁があるため、まず学生と地域住民の信頼関係を築き、自分たちなりのやり方で協働の町づくりを進めることが大切だということがわかった。そして実際に学生が地域住民と信頼関係を築いていくために3段階のステップを考えていたが、今回はその内容を考察し直して以下のようにまとめた。

第1段階として地域住民が主催するイベントに積極的に参加していく。ただお客さん

として参加するのではなく、お手伝いできることがあれば進んで行いイベントを盛り上げていく。そこで地域住民や西条のことを知ることに加えて自分たちのことも知ってもらい少しずつ距離を縮めていく。

第2段階として地域住民主催のイベントに参加するだけでなくその企画と一緒に関わらしていただく。もっとこうしたら良くなるといった学生目線の意見も取り入れてもらい、新しい風を吹かせていく。この段階では地域住民の立場が上である。

第3段階として学生と地域住民が同じ立場でそれぞれが抱える問題を共有し、その解決に向けたイベントを協力して開催することである。またイベントだけではなく日常生活の中で助け合いが行われていくとよい。

1.4 目的と研究課題

この論文は学生と地域住民協働の町づくりを実現していくことを目的とする。そのためまず学生と地域住民が信頼関係を築くことが必要であると考えた。そして信頼関係を築くには3段階のステップが必要であると考えた。よって研究課題は「学生と地域住民が信頼関係を築くに3段階のステップは有効か」とする。

第2章 方法

2.1 西条 LOVERS 結成と実践活動の分類

私は2015年2月15日に「西条 LOVERS」という団体を立ち上げ、広島大学の学生14名が西条で地域の方々と協力しながら様々なイベントに参加し、企画・運営を行った。そして三段階の信頼関係作りのステップの有効性を確かめるために、それらの実践活動を3段階に分類し、分析した。

第3章 結果

3.1 くぐり門音楽会（第3段階）

日時：2014年 2月27日（金）18：00～20：00

会場：くぐり門珈琲店

準備期間：2週間

準備内容：くぐり門珈琲店との交渉（計 5 回）、中国新聞への取材対応、企画書作成、広告作成、ビラ配り、出演者呼びかけ、アンケート作成、会場設営など

概要：酒蔵通りにあるくぐり門珈琲店さんをお願いをしてコンサートを企画させていただきました。学生が酒蔵通りでコンサートを行うことで地域に興味のない学生を呼び込むとともに、学生と地域住民が交流する機会を作ることができるのではと考えた。内容は自分たちで酒蔵通りをテーマにした歌を作曲し、披露した。また昔の名曲をギターに合わせ披露し、世代を超えて楽しめるように工夫した。広島大学のギターサークルのみなさんにも参加していただいた。

成果：21 名ほどの方々が見に来てくださり、大変喜んでもらうことができたが、初めてのイベント開催ということもあり、会場一体の雰囲気作りなど課題が多く挙がった。ただ、学生が自分たちの思いをイベントという形で表現し、地域の方々に自分たちの思いを知ってもらうことができたのは大きな収穫だったと思う。地域の方と同じ立場で協力し、新しいイベントを作り出したという点で第 3 段階に分類したが、信頼関係を築く上での突破口としての意味が強かった。そしてこのときお客さんとして来られていた方から次の東広島音楽祭への参加のお誘いを頂いた。

アンケート結果：

No.	Q1あなたの性別を教えてください。	Q2 あなたの年齢を教えてください。	Q3 ぐり門音楽会を何から見聞きして知りましたか。	Q4 酒蔵通りにはどのくらい来られますか。	Q5 今回の音楽会についてご意見感想があればお寄せください。
1	男性	70代～	知り合いから	年に1回ほど	若いのに元気がない、ムード作りにせめてアンプカリズムマシンがほしい。ムード作りにせめてアンプカリズムマシンがほしい
2	男性	70代～	新聞	週に2回以上	久しぶりに落ち着いたギターの音色が開けて良かった。
3	女性	30代	その他()	住んでいる	素敵な歌声が店の雰囲気にもマッチしていました。次回も頑張ってください。
4	女性	40代	知り合いから	住んでいる	歌も上手でお話もよくできて若い人らしく良かったです。パンフレットも杉玉などがかわいくほのぼのしていました。
5	男性	30代	ポスター	年に1回ほど	クラシックギターの生演奏は初めて聴けて良かったです。ギタークラブのみなさんありがとう。もやしちゃんの歌声は個性的で素敵ですね。こういう企画からはたくさんのお話を学べますね。これからも頑張ってください。学生の力でまちおこし応援しています！！
6	女性	10代	知り合いから	今回が初めて	とっても楽しかった！また来たい！
7	女性	70代～	ポスター	住んでいる	若い人たちの企画で町がにぎわえばうれしいです。
8	女性	40代	知り合いから	住んでいる	
9	女性	30代	知り合いから	月に1回ほど	
10	男性	50代	知り合いから	年に1回ほど	よかったです。まちあわせの歌のストーリーが今一つ、編曲の必要あり、最後はもっと盛り上がりたね。歌はやはり立って歌うのがいいのでは、声が出ていません。
11	女性	40代	知り合いから	週に1回ほど	前半、もう少し練習頑張って！、MC等工夫して交流を図る場として活用すればいいのでは？後半は後半は語りもよくもやしちゃんの素直な歌声が印象的でした。GOOD♡
12	女性	60代	ポスター	住んでいる	楽しかった。西条をすきになってくれてありがとう。
13	女性	40代	知り合いから	月に1回ほど	とても新鮮な企画だと思います。今後も開催されることを楽しみにしています。
14	女性	10代	知り合いから	月に1回ほど	とてもいい演奏でした。
15	女性	10代	知り合いから	週に1回ほど	楽しかった。
16	女性	30代	知り合いから	住んでいる	ステキな時間をありがとうございます。
17	男性	20代	Facebook	週に2回以上	ゆったりできて良かったです。ギターの音色いいですね。
18	女性	70代～	知り合いから	今回が初めて	
19	男性	40代	知り合いから	月に1回ほど	よかった、楽しかった、癒された、全部聞きたかった。次回もここでやってくださいね。でも発声練習はしようね(笑)
20	男性		知り合いから		
21	女性	10代	知り合いから	年に1回ほど	



3.2 西条愛を奏で night (第2段階)

日時：5月30日 (土) 18:00～20:00

会場：くぐり門珈琲店

準備期間：1カ月半

準備内容：酒蔵通りでのムービー撮影(計3回)、くぐり門珈琲店との交渉(計5回)、企画書作成、広告作成、ビラ配り、出演者呼びかけ、アンケート作成、会場設営など

概要：東広島音楽祭の「店舗 de Tempo」というイベントの一環で行った。学生と地域住民に西条の人・ものの魅力を知ってもらいたいと酒蔵通りで出会った人に夢を聞いてまわり、その様子をムービーにして上映した。また前回のくぐり門音楽会の反省を生かして会場の雰囲気作りに力を入れた。「ふるさと」を会場の皆さんといっしょに合唱した。

成果：前回よりも、学生を始め若い層の人たちが来てくれた。初めて酒蔵通りを訪れた学生も多く、地域を知るきっかけを提供できたと思う。またムービーを撮影する際に地域の方とお話する機会が多くあり、酒蔵通りの歴史や町への思いなどを聞くことができた。今まで学生がこの企画に関わることはなかったが、新しい風を吹かすことができたと思う。



3.3 東広島音楽祭 (第2段階)

日時：6月13日 9:00～18:00

場所：賀茂泉

準備期間：2か月

準備内容：実行委員会会議への参加（計4回）、賀茂泉との交渉（計8回）、責任者との打ち合わせ（計5回）、企画書作成、FM 東広島への出演、ボランティア呼びかけ、看板作成、装飾作成、タイムテーブル作成、会場設営など

概要：東広島音楽祭の実行委員として関わり、定期的に会議に参加した。始めは、ボランティアとして部分的に関わる予定だったが、賀茂泉さんで行われるイベント全体の運営をやりたいと申し出た。当日は子供広場を開設したり、賀茂泉の方と協力しカフェの運営を行ったりして、多世代が音楽を楽しめるように工夫した。さらにステージにも出ささせていただき5曲披露した。

成果：当日は客席が満席になるほどのお客さんが来場し、大賑わいだった。子供広場、カフェともに好評で、ぜひ来年もしていただきたいとお声をいただいた。また今回は学生ボランティアを13人募集し一緒に活動したところ、大変楽しんでくれたようだった。ボランティアという形で地域に関わるきっかけを提供できたことは大きな成果だったと思う。そして学生のエネルギーや創造性を存分に生かすことができた。



学生と聴衆の「西条賛歌」
酒蔵アンサンブルカフェ

今年の「酒蔵アンサンブルカフェ」は、広島大の2年生7人による自主サークル「西条LOVERS」が運営します。活動の一環として、今年2月にぐりぐり門咖啡店でコンサートを開催し、そこで酒蔵通りをテーマにしたオリジナルソングを発表。すると、その歌詞に共感した観客が、お返しの歌詞を贈るといふサプライズが！今回はその歌詞に曲を付け、アコースティックギターの演奏に乗せて披露します。

ホール内では、日本酒(500円)やケーキセット(ドリンク付き、500円)を販売予定。ステージにのみん太が登場したり、初登場の「子ども広場」でワークショップを開催したりと、子どもと一緒に楽しめる会場になっています。

「西条LOVERS」は、積極的に地域のひととつながり、西条の歴史や魅力を知ろうと昨年10月に結成しました。

西条LOVERS代表の藤原佳祐さん(総合科学部2年生)

★6月13日(土)
★賀茂泉和泉館ホール
★12:00~16:30(11:30開場)
★入場無料

3.4 まちづくりカフェ（第1段階）

日時：6月28日 12:00～17:00

場所：生涯学習センター

準備期間：1週間

準備内容：スライド作成など

概要：地域協働センター主催のまちづくりカフェに発表者として参加した。その後のワークショップでも市役所の方、地域の方、学生と意見を交換した。

成果：いろいろな人のお話を聞いてみて、地域は学生をととても求めていると感じた。また自分たちが地域で活動してみても困ったことややりたいことなどを伝えることで、学生と地域が歩み寄っていく機運が生まれたと思う。



3.5 学生喫茶 だんだん (第3段階)

日時：7月5日 9:00～12:00

場所：NPO 法人 陽だまり

準備期間：4カ月

準備内容：陽だまりとの交渉（計12回）、三ツ城住民自治会との交渉（いきいきサロン、部会へ参加）（計10回）、企画書作成、広告作成、タイムテーブル作成、アンケート作成、材料調達、会場準備など

概要：学生と地域住民のつながりを築きたい西条 LOVERS と地域の中にもっと溶け込んでいきたい NPO 法人の陽だまりと高齢者の地域での孤立の問題を抱える三ツ城住民自治会さんとが協力して行ったイベントである。具体的には陽だまりから場所の提供をしていただき、高齢者への広報は三ツ城住民自治会さんをお願いした。企画・運営は西

条 LOVERS で担当した。内容は高齢者の方と暑中見舞い作りや昭和の歌謡曲メドレーを楽しんだ。

成果：暑中見舞い作りでは学生、高齢者を問わず夢中になり自然と会話が弾んだ。歌謡曲メドレーも大盛り上がりで世代を超えてつながることができた。ここでの三ツ城住民自治会とのつながりで「光の宴」というイベントにも招待いただいた。3者が持つ思いを共有し、ともに協力できたことは大きな意義があった。

アンケート結果：

性別	年齢	満足度	時間について	参加費はどうでしたか	最後に感想・ご意見などご自由にお書きください
女性	77	大変よかった	ちょうど良かった	ちょうど良かった	若い方々の健康的な企画に参加させていただき、若い世代の優しさや素晴らしい感性に心を洗われました。今後もぜひ、継続して下さい。
女性	75	大変よかった	ちょうど良かった	ちょうど良かった	今日大変楽しかったです、又会える日をたのしみにしております
女性	68	大変よかった	ちょうど良かった	ちょうど良かった	学生の方々と共に楽しい時間であったと思います。又、機会があれば参加したいと思います。
女性	6				たのしかったです。
女性	27	大変よかった	ちょうど良かった	ちょうど良かった	コンサートの選曲が来店された方の年代に合っていて、良かったと思います。これからも活動頑張ってください。
女性	80	大変よかった	ちょうど良かった	安い	久しぶりに笑顔で過ごせました、又、お願いします。
女性	58	大変よかった	ちょうど良かった	ちょうど良かった	楽しくすごさせていただき元気が出ました。これからもどんどん活動して下さいね、応援しています。
男性	67	大変よかった	ちょうど良かった	ちょうど良かった	学生さんとの交流会が初めてで、不安でしたがカリキュラムも内容も大変良く出来たと思います
女性	68	大変よかった	ちょうど良かった	ちょうど良かった	スタッフの笑顔が大変よい。私達が勉強になりました。多くの方に参加してもらい広めましょう
女性	75	大変よかった	ちょうど良かった	ちょうど良かった	良かったです。今度を楽しみにしています。
男性	63	大変よかった	ちょうど良かった	安い	若さバンザイ、生涯青春で生きていきます、ありがとうございます
女性	67	大変よかった	ちょうど良かった	ちょうど良かった	よく工夫されたプログラムだったと思います。地元の人間として西条で有意義な青春をすごして欲しいです。
男性	92	大変よかった	ちょうど良かった	ちょうど良かった	又のき会にさんかしたい
女性	20	よかった	短かった	ちょうど良かった	オリジナルが素敵でした！！ハモリも素敵だったので強化して欲しいです。



3.6 祇園祭り（第1段階）

日時：7月10日 18:00~22:00

場所：御建神社

準備期間：1週間

準備内容：地域の方と打ち合わせ、ボランティア募集など

概要：祇園祭にボランティアとして参加した。

成果：地域の伝統を知ることができた。また地域の方とのつながりが広がった。



3.7 学生と市役所職員の交流会（第1段階）

日時：8月7日 18:00~19:30

場所：市民協働センター

準備期間：1週間

準備内容：スライド準備など

概要：学生団体と市役所の職員の方との交流会に発表者として参加した。まず始めに学生団体が活動を発表した後に、市役所の方とお話をした。

成果：市役所の方に活動を知ってもらえただけでなく、学生団体の横のつながりも作ることができたと思う。



3.8 盆踊り（第1段階）

日時：8月15日

場所：西条御建グラウンド

準備期間：2週間

準備内容：歌の練習など

概要：盆踊りにボランティアとして参加した。ステージ発表に加え、屋台のお手伝いを行った。

成果：今までほとんど学生が関わることのなかった祭りに参加させて頂いて、少しずつ地域の方との距離が縮まってきているように思う。



3.9 光の宴（第2段階）

日時：10月23日

場所：三ツ城古墳

準備期間：3カ月

準備内容：三ツ城住民自治会との打ち合わせ（計10回）、担当者との打ち合わせ（計20回）、企画書作成、タイムテーブル作成、ボランティア募集、看板作成、試作品作成、材料調達、会場準備など

概要：三ツ城住民自治会主催の「光の宴」というイベントに参加させて頂き、ボランティアとしてお手伝いをするだけでなく、西条 LOVERS のブースを設け、小学生を対象にしたはにわスタンプを作るワークショップを行った。またステージにも出させて頂き、はにわにちなんだ「はにわソング」を披露した。

成果：三ツ城住民自治会と連携を深めるとともに、そのほかの地域の方々にも私達の活動を知ってもらうことができた。また今回も学生ボランティアを多数募集し、学生が地域のイベントに参加するきっかけを提供することができた。さらに同じ学生団体である「灯」とも連携をすることができ、学生側でもつながりを作ることができた。部分的ではあったが、今までの形にアレンジを加えることができたと思う。



3.10 ホームカミングデー（第3段階）

日時：11月7日

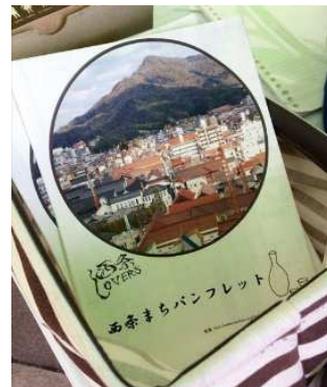
場所：広島大学

準備期間：4カ月

準備内容：酒蔵の方との交渉（計15回）、ホームカミングデー主催者との交渉（計10回）、大学との交渉（計5回）、企画書作成、タイムテーブル作成、ボランティア募集、看板作成、試作品作成、材料調達、会場準備など

概要：広島大学のホームカミングデーに出店した。学生に地域に関心を持ってもらいたいという西条 LOVERS の思いと学生に西条のお酒文化を知ってもらいたいという酒蔵の方の思いが合わさって実現したものである。西条の郷土料理である美酒鍋を実際に酒蔵の方にお手伝いを頂きながら提供した。またお酒に関するパンフレットも作製し、学生に興味を持ってもらえるように工夫をした。そしてステージ発表も行った。

成果：多くの方々においしいと評価をいただいた。自分でも作ってみたいと言ってくださる方もいて、学生に地域のことに興味を持ってもらうことができたと思う。すべては酒蔵の方とうまく連携できたからだと思う。またステージ発表では地域の方々も見に来てくださり、少しずつ広がってきていることが実感できた。



第4章 考察

4.1 3段階の信頼関係作りの振り返り

第1段階のイベントについて、自分たちがやりたいことをするためには、まず地域の集まりに顔を出し、地域を知ることが重要であった。また繰り返し参加する中で自分たちの顔と名前を覚えてもらい、少しずつ距離を縮めることができた。第1段階の準備期間は短く、準備内容も多くないので手軽ではあるが、第1段階に依存しすぎると、学生がただの労働力として扱われる可能性がある。よってただ参加するだけであっても学生側のメリットをよく考えなければならない。そして第1段階で築いた関係を次の第2段階、第3段階へつないでいくことが最も大切である。

第2段階のイベントについては学生が持っている発想の豊かさや創造性、行動力、発信力などを生かすことができたと思う。ただ地域住民が主催するものなので、地域住民のイメージや思いをうまく聞き入れなければならない。そのために密接に連携をとる必要がある。そしてあいさつ、時間の管理などのマナーは身につけて信頼関係を失わないようにしないといけない。第2段階でイベントを協力して成功させることができると、一気に地域住民との距離が縮まり、いい関係を築くことができる。

第3段階のイベントについては地域の方と同じ立場で互いの思いを共有し、実行に移すことができた。地域の中には様々な課題や要望が多く、それに対し学生のニーズや強みをうまく反映させた取り組みをしていけると学生と地域住民が win-win の関係を築いていけると思う。この第3段階が活発になっていくとイベント以外の部分でも自然と学生と地域住民がともに思いやり、協力していけるような関係ができていくと思う。そしてそれが学生と地域住民協働の町づくりにつながっていくと考えられる。第2段階以

上に準備期間は長く、地域住民との話し合いは重要であった。単なる自己主張ではなく、住民側の気持ちを踏まえた建設的な話し合いをしていかなければならない。そのため、第1段階、第2段階を通して信頼関係を築き、お互いに相手のことをよく知っておくことが必要である。

第5章 総括

5.1 結論

「学生と地域住民が信頼関係を築くには3段階のステップは有効か」を研究課題としたが、学生が地域住民と信頼関係を築く上で3段階のステップは有効であった。しかし第3段階においてまだまだ発展の可能性があり、今後も引き続き研究が必要である。

5.2 これからの課題と展望

1年間の活動で地域住民との信頼関係を築くことができたと思う。しかし西条 LOVERS 以外の学生にとって地域はまだまだ遠い存在である。そこでまず第1段階の地域のイベントに参加することを他の学生に促進していきたい。そのために今まで西条 LOVERS と地域住民という2つの構図の中で活動をしていたが、今後は西条 LOVERS が学生と地域の間に入り、コーディネーターとしての役割を担っていきたい。具体的にはイベントの情報を学生側に発信していくと同時に、地域側にもより多くの学生を受け入れることができる体制を整備していかなければならない。そのため、今まで以上に地域住民と連携を深めていく必要がある。

また第3段階をさらに発展させるために他の機関と連携を作っていかなければならない。

1つ目は他の学生団体との連携である。今の広島大学の学生団体は現状として独立的に活動している。各学生団体が横の連携体制を築くことで、情報・スキル・人材の共有が進み全体として学生団体の活動が活発化することが考えられる。そしてそこに地域住民が関わっていく流れができてくると、学生と地域住民の新しい取り組みが必ず増えていくと思う。

2つ目は大学との連携である。具体的には地域でフィールドワークを行い、実際に課題を解決していく授業プログラムがあるとおもしろい。またそうした地域での活動の中で優れたものを表彰する仕組みがあるとより学生が意欲的に取り組めるようになると思う。

3つ目は行政との連携である。学生の声に耳を傾け、地域の情報や利用できる制度を紹介してくれる窓口があると、学生が地域で活動しやすくなると思う。また地域活動を行う上での交通費の補助があると、学生の活動範囲が広がると思う。

5.3 地域への感謝

昨年は学生と地域につながりがないことに問題意識を持ち、それを解決していくためのプラン作りの段階で終了していたが、今年はそれを元に実践的に取り組むことができた。実際に地域の中で活動することは簡単なものではなく、様々な苦勞も多くあった。しかし徐々に自分たちの活動を応援してくれる人がいたり、自分たち自身が達成感を味わうことができたりして、今まで頑張っただけ活動を続けることができたと思う。今後は考察に挙げたようなことをいろいろな人と協力しながら実現していきたい。最後に、こうして地域と関わる中でたくさんの人と出会い、たくさんの感動があり、そして成長している。これは西条という地域があるからこそだと思っている。これからも地域への感謝の思いを忘れず、頑張っていきたい。